

# 重要

## トビイロウンカによる坪枯れに注意

三田営農総合センター

今年は、昨年よりも1ヶ月早くトビイロウンカの発生が確認されています。

兵庫県病害虫防除所の情報でも確認されています。**今年の平均気温は平年に比べて高く降雨もないことから、本虫の急激な増殖に適した気候になっています。**

三田市も8月24日の水稻病害虫発生予察にて発生が確認されました。JA兵庫六甲管内や県下でも発生しております。**現在は、第2世代の幼虫が多く、8月下旬から9月初めが防除適期です。**無防除の場合、9月下旬以降に収穫する品種では坪枯れを起こし、減収の予想がされます。

トビイロウンカは稲の株元に生息していますので、株元をよく観察しましょう(写真)。

**中晩生の品種では被害(坪枯れ)が懸念されることから、出穂前防除を実施していない場合は必ず8月中に防除を実施しましょう。早生品種等で被害が出そうな場合は早めに収穫します。**

### ○対策

①**薬剤は株元までかかるように丁寧に散布します。**

②効果の期待できる下表の薬剤を使用します。

③スタークル粒剤は有効成分が根部及び葉鞘部(水面下)から吸収移行するため、効果が出るまで数日間要します。早めの散布を心がけましょう。

④トレボン粉剤DLは一般の粉剤に比べ流動性が良いので、散布の際は1目盛絞って散布しましょう。

薬剤名	10アール当り使用量	使用期限	対象害虫
スタークル粒剤	3kg	収穫7日前まで	ウンカ類、ツマグロヨコバイ、カメムシ類
スタークル液剤10	1,000倍 60~150㍓	3回以内	
トレボン粉剤DL	3~4kg	収穫7日前まで 3回以内	

**ご注文は三田グリーンセンターまで！(TEL:079-567-1216)**

※使用の際は収穫期までの期間にご注意ください。

※農薬使用については、総使用回数・収穫前日数等に注意し使用基準を守り、散布してください。

●**粒剤の場合は、4~5日間は湛水状態を保ち、散布後7日間は落水や、かけ流しをしない。**

以下、三田市内の発生状況  
(令和2年8月24日調査)

#### 【三田地区】

トビイロウンカ 0匹/40株

#### 【三輪地区】

トビイロウンカ 11匹/40株

#### 【高平地区】

トビイロウンカ 17匹/40株

#### 【藍地区】

トビイロウンカ 2匹/40株

#### 【本庄地区】

トビイロウンカ 42匹/40株

#### 【広野地区】

トビイロウンカ 0匹/40株



トビイロウンカは株元に集中(写真左)し、吸汁し続けるため、茎は枯れ上がり、円形に坪枯れする(写真右)。株に5頭で今すぐ要防除。

発信日:令和2年8月26日(水)

問い合わせ先:三田営農総合センター 079-563-4192

令和2年  
8月11日発信

# 三田稲作情報

～ 水稲病虫害発生予察情報 ～

【発行・編集】  
JA 兵庫六甲三田営農総合センター  
阪神農業改良普及センター  
お問い合わせ先：079-563-4192

コシヒカリは出穂期～乳熟期です。生育ステージに合わせた水管理を徹底しましょう。今年はカメムシが多く発生が見込まれますので、出穂後のカメムシ防除を行ってください。山田錦は2回目の穂肥時期が近づいています！！

8月4日に本年度第4回目の水稲病虫害発生予察調査を実施しました。

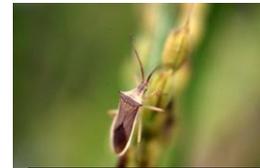
## 生育状況について

コシヒカリの生育は平年並で田植え日が早いところでは傾穂～乳熟期を向えています。山田錦は、2回目の穂肥が近づいております(出穂10日前頃)。

品種	地区名	田植え日	令和2年		令和元年	
			草丈	茎数	草丈	茎数
			cm	本/株	cm	本/株
山田錦	三輪	6月5日	92.2	23.9		
	本庄	6月6日	92.3	19.7	93.2	20.2
	藍	6月1日	80.2	20.4		
	広野	5月27日	80.1	19.5		



クモヘリカメムシ



ホソハリカメムシ

## 病虫害発生状況について(カメムシに注意)

病害:とよめき、ヒノヒカリに紋枯れ病が発生「小」ですが確認されております。

害虫:ウンカ類の発生は若干見られる程度で、被害を及ぼす程度はありませんでした。

カメムシ類は防除されている圃場は発生が少なかったが、未防除圃場は多く発生しておりました。また大型のイネカメムシも多くみられています。今後もカメムシ類の多発が予想されますので、すでに防除されている箇所でも発生状況を注視し、臨機防除をお願いします。

散布薬剤	適用病虫害	使用量	使用時期	使用方法	使用回数
スタークル粒剤	ウンカ類 ツマグロヨコバイ ニカメイチュウ カメムシ類	3kg/10a	収穫7日前まで (出穂してから <b>5日前後の散布</b> が効果的)	散布 (ひたひた水 から3cm程度の 水深で散布)	3回以内

## いもち病対策について(山田錦・ヒノヒカリ)

上位葉にも発病している場合は穂いもちにつながる可能性が高いので防除してください。

粒剤	散布薬剤	対象病虫害	10a当たり使用量	使用時期	使用方法	本剤の使用回数
粒剤	コラトップ トレボン粒剤	いもち病、 ツマグロヨコバイ、 ウンカ類	3～4kg	出穂5日前まで	散布	2回以内
ジャンボ剤	コラトップ ジャンボP	いもち病	小包装(パック) 10～13個(500～ 650g)/10a	葉いもちに対して初発20日前 ～初発時、穂いもちに対して は出穂30日前～5日前まで	水田に小包装 (パック)のまま 投げ入れる	2回以内

令和2年  
7月30日発行

# 三田稲作情報

【発行・編集】  
JA 兵庫六甲三田営農総合センター  
阪神農業改良普及センター  
お問い合わせ先：079-563-4192

## ～ 水 稻 病 害 虫 発 生 予 察 情 報 ～

7月16日に、本年度第3回目の生育調査及び病害虫発生予察調査を実施しました。

### <生育調査結果より>

草丈はやや短く、茎数は一部多くなっています。早生種のコシヒカリ、どんとこい、多収米とよめきはすでに幼穂形成期に入っており水が必要ですので、湛水を行ってください。出穂は平年並み～やや遅い見込み。

中干が不十分なところが向けられますが、出穂期に入りますので間断かん水をします。不十分だからと言って、刈り取り前の早めの落水は品質が低下しますので控えるようにしましょう。

山田錦の生育は、草丈はやや短く、茎数はやや多いです。中干しの時期が近づいています。目安の茎数は株間により違いますが、下表を参考に16～17本/株確保できれば中干しを開始します。

### 《調査結果》

品種	地区	田植日	令和2年		令和元年	
			草丈 (cm)	茎数 (本/株)	草丈 (cm)	茎数 (本/株)
コシヒカリ	本庄	5月23日	74.2	27.25	70.8	23.7
	藍	5月8日	86.625	33.15	91.8	28.4
どんとこい	広野	5月28日	64.2	25.5	69.2	24.1

### 山田錦中干し開始時期の目安

株間 (cm)	目安の茎数
20	15-16
22	17-18
23	18-19

### 【出穂予測】

コシヒカリ…5月 8日植え：7月25日、5月23日植え：8月5日

どんとこい…5月28日植え：8月 5日 とよめき…5月26日植え：8月9日

病害：調査時には、目立った病害は見つかっていません。

害虫：ウンカ類の発生は若干見られる程度で、被害を及ぼす程ではありません。

イナゴ類の発生がやや多く見られますが、収量に影響する程度ではありません。

### <今後の管理について>

#### 【いもち病】

定点調査では葉いもちの発生は見られませんでした。いもち病は日照不足や多雨により感染しやすくなります。本年は7月に長雨が続き、慢性・停止型の病斑が散見されています。今後の天候次第で穂いもち等へ移行する可能性もありますので、発病動向に注意してください。

●ほ場内で、葉いもちが多数発生している場合は、穂いもちへの移行を防ぐため下記の表を参考に防除しましょう。薬剤散布の判断がしにくい場合は、営農相談員までご連絡ください。

薬剤名	適用病害名	使用量	使用時期	使用回数	使用方法
ブラシン粉剤DL	いもち病 ごま葉枯病	3～4kg/10a	収穫7日前まで	2回以内	散布
	内穎褐変病 もみ枯れ細菌病	4kg/10a			
コラトップ粒剤5	いもち病	3～4kg/10a	穂いもちに対しては出穂30日前～5日前まで	2回以内	散布
	もみ枯細菌病	4kg/10a	出穂30日前～5日前まで		

※その他病害の登録内容についてはラベルをご確認ください。

**【カメムシ対策】※今年は多発が予想されております。しっかりと本田防除をしましょう！**

**出穂の2週間前までに畦畔の草刈りをすませましょう。**

※出穂間際の畦草刈りは本田に追い込むこととなりますのでご注意ください。

また、水田内のヒエやホタルイはカメムシを誘因するので、除草を徹底することは大切です。

出穂5日前後の薬剤防除が有効です。

薬剤名	適用害虫名	10a当り使用量	使用時期	使用回数
スタークル粒剤	ウンカ類、ツマグロヨコバイ、ニカメイチュウ、カメムシ類	3kg	収穫7日前まで	3回以内
スタークル豆つぶ	カメムシ類	250g		
		ウンカ類、ツマグロヨコバイ	250g～500g	

#### 【その他】

●出穂期は、特に水分を必要とするので水を切らさないやや深水とし、登熟期の間は飽水管理（足跡に水が溜まっている状態）で管理します。中干し不足により田を早く乾かしたいため、早期落水をすることは、登熟不足や乳白粒の発生を助長するので避けましょう。